



2022年12月期 決算説明会

株式会社イトーキ（証券コード:7972）

2023年2月14日

2022年12月期 通期実績

- オフィス移転やリニューアル案件などを中心に売上は好調に推移
- 販売価格の適正化やカタログ価格の改定、物流コストの圧縮等各種構造改革に取り組み、利益率良化
- これらの結果、2期連続で増収増益。当期純利益は過去最高益を更新
- 業績を鑑み、期末配当金を前回予想の1株当たり15円から17円へ2円増配し、さらに特別配当20円を実施

2023年12月期 業績予想

- 各種構造改革プロジェクト（営業、生産・供給改革・資産効率化等）を引続き推進し、結果を出していく
- 中期経営計画の連結営業利益60億円を上回る65億円を目指す
- 設備機器・パブリック事業において、前期の研究開発機器大型受注・売上計上の反動により、当セグメントは若干の減収減益を見込むものの、ワークプレイス事業における増収効果により、連結増収、営業利益増益を目指す
- 当期純利益は、前期における特別利益計上の反動により30%減益を見込む

今後の展開

- IT、DX、サステナブルにおける新たなビジネスモデルを開発していく
- 人財面に注力し、持続的な成長基盤を創る

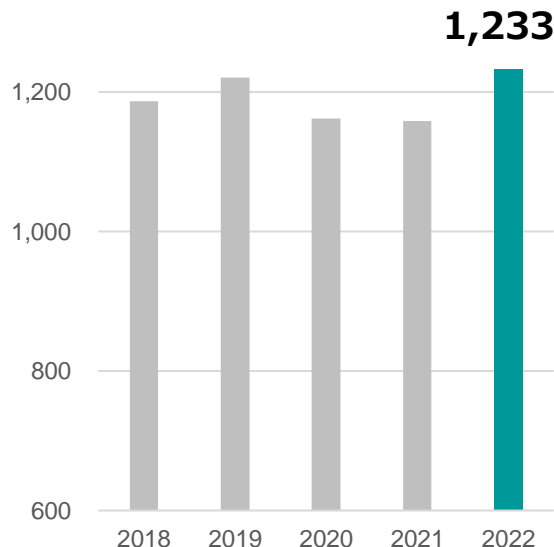
1. 2022年12月期 通期業績
2. 2023年12月期 業績予想
3. 今後の展開

2022年12月期 通期業績

営業・生産・供給改革・資産効率化等の各種構造改革の成果により、
業容の拡大、および収益性を強化

売上高

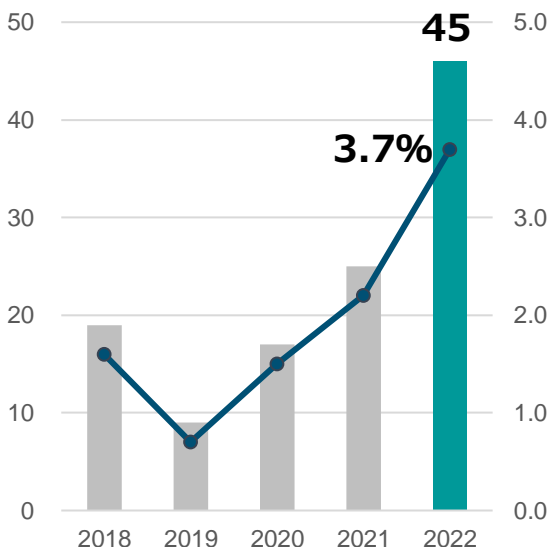
(億円)



※2020年度12月期および2021年度12月期は、
コロナ禍の影響

営業利益・営業利益率

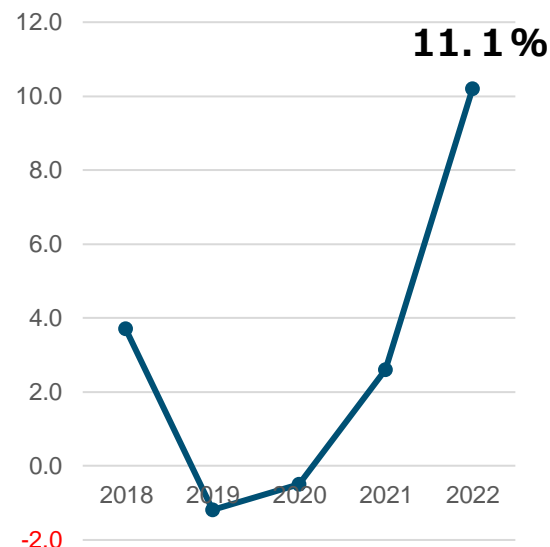
(棒グラフ：億円、折れ線グラフ：%)



※なお、2022年度12月期 親会社株主に帰属する
当期純利益は過去最高益を更新

ROE

(%)



※2022年度12月期：特別利益計上の寄与あり

- ・ 主要セグメントの増収増益の寄与により連結増収増益、および提供価値の向上により利益率改善
- ・ 非事業用資産の売却に伴う特別利益の計上も寄与し、当期純利益は**過去最高益**を更新

(単位：億円)

	2021/12 実績	2022/12 実績	対前年		2022/12 当初予想	2022/12 修正予想 (2022/12公表)	対当初予想 達成率
			増減差	増減率			
売上高	1,159	1,233	+ 74	+ 6.4%	1,200	1,230	102.7%
売上原価	741	775	+ 33	+ 4.6%			
売上総利益	417	457	+ 40	+ 9.7%		-	
販管費	391	411	+ 20	+ 5.1%			
営業利益	25	45	+ 20	+ 79.0%	30	42	152.7%
〔営業利益率〕	〔2.2%〕	〔 3.7%〕	〔-〕	〔+1.5p〕		〔3.4%〕	〔+0.3p〕
経常利益	24	41	+ 17	+ 71.4%	29	41	144.0%
特別利益	15	78	+ 62	+ 402.3%			
特別損失	24	36	+ 11	+ 46.3%			
税金等調整前 当期純利益	15	83	+ 68	+ 449.5%		-	
法人税等	5	31	+ 26	+ 440.6%			
親会社株主に 帰属する 当期純利益	11	52	+ 41	+ 353.9%	14	50	378.1%

・非事業固定資産売却、増収増益による現金及び預金の増加などにより総資産は増加

(単位：億円)

連結貸借対照表要旨	21/12	22/12	増減	摘要
流動資産	577	710	+ 132	・構造改革プロジェクトの施策による現預金の増加
固定資産	461	442	△ 18	・無形固定資産の除却による減少
資産合計	1,038	1,152	+ 113	
流動負債	425	490	+ 65	・増収増益に伴う未払法人税等の増加
固定負債	162	162	+ 0	
負債合計	588	653	+ 65	
株主資本合計	443	491	+ 48	・増収増益による利益剰余金の増加
純資産合計	450	499	+ 48	

連結キャッシュ・フロー計算書要旨	21/12	22/12	摘要
営業活動によるキャッシュ・フロー	—	58	・営業利益の増益等による増加
投資活動によるキャッシュ・フロー		49	・非事業資産売却による増加
フリーキャッシュ・フロー		107	・将来の成長投資に向けた資金を創出
財務活動によるキャッシュ・フロー		△14	・配当金の支払
現金及び現金同等物の増減額		95	
現金及び現金同等物の期末残高		254	



■ ワークプレイス事業

- ・ ニューノーマル時代の新しい働き方にあわせたオフィス移転やリニューアル案件の売上が好調に推移し、増収
- ・ 構造改革プロジェクトの成果によりオルガテック出展等の戦略的支出を吸収し、大幅増益

■ 設備機器・パブリック事業

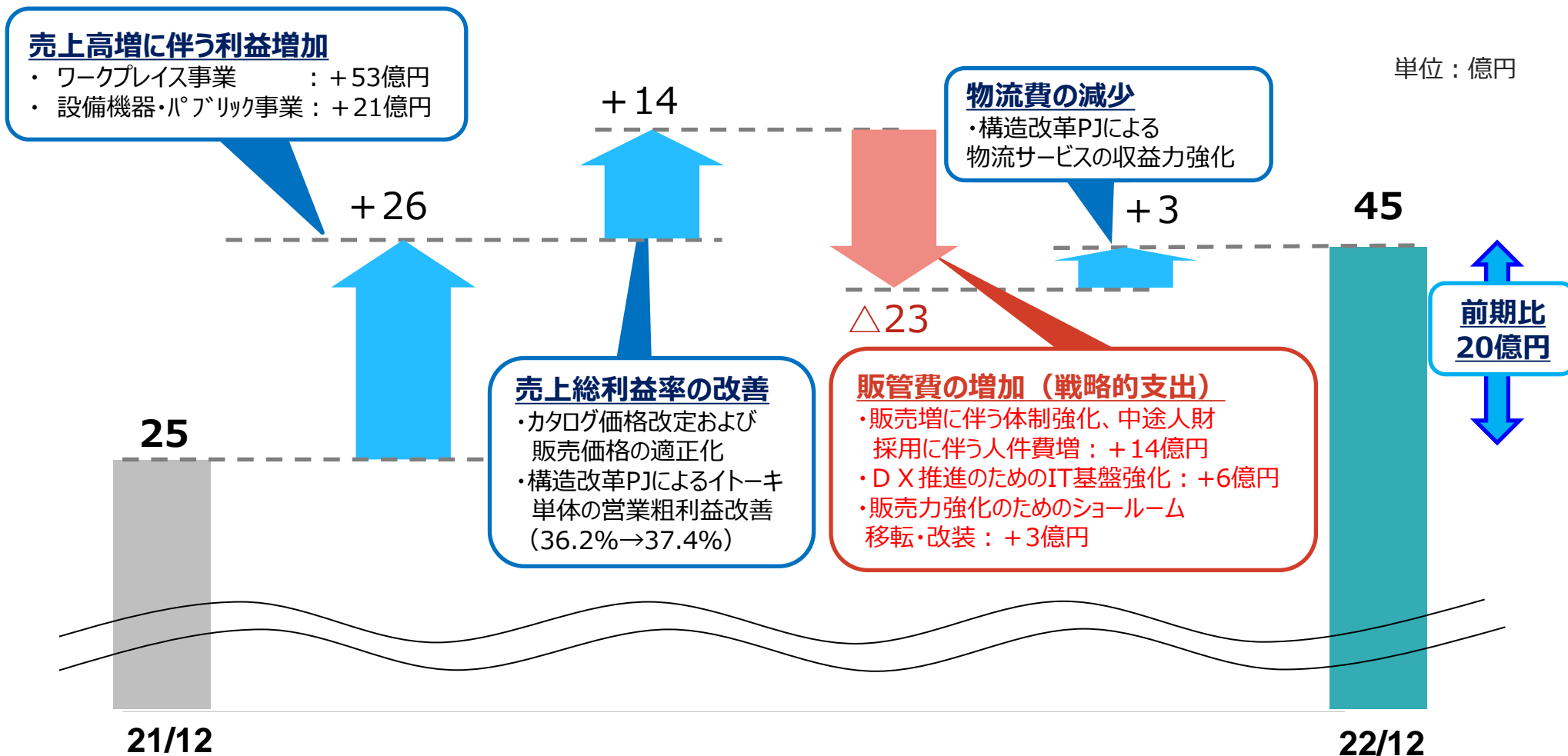
- ・ 研究施設（サイエンスパーク）などの大型商談受注の売上寄与や物流設備の需要が好調に推移し、増収
- ・ 研究施設、物流設備の増収効果により、大幅増益

(億円)

		21/12 実績	22/12 実績	増減額	増減率	
ワークプレイス		売上高	805	859	+ 53	+ 6.7%
		営業利益	19	25	+ 6	+ 34.7%
		〔営業利益率〕	〔2.4%〕	〔3.0%〕	—	〔+ 0.6p〕
設備機器・パブリック		売上高	334	356	+ 21	+ 6.5%
		営業利益	9	14	+ 5	+ 52.2%
		〔営業利益率〕	〔2.9%〕	〔4.2%〕	—	〔+ 1.2p〕
IT・シェアリング		売上高	17	16	△ 1	△ 7.6%
		営業利益	△ 3	4	+ 8	—
		〔営業利益率〕	〔—〕	〔23.1%〕	—	〔—〕

営業利益の増減要因(前年度からの分析)

売上高増、構造改革プロジェクトの売上総利益率改善、物流費の減少により、
戦略的支出の増加分を吸収し、大幅増益

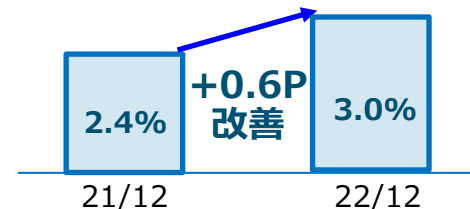


営業改革 に関する取り組み



- 提供価値に見合った販売価格の適正化
- コンサルティングサービスの強化・拡大
- 配送料・デザイン費等のサービスの収益化

ワークプレイス事業における
営業利益率の前期比



生産・供給 に関する取り組み



- 新たなアSEMBル生産拠点であるAPセンターの竣工・稼働
- 仕入商品のコストダウン



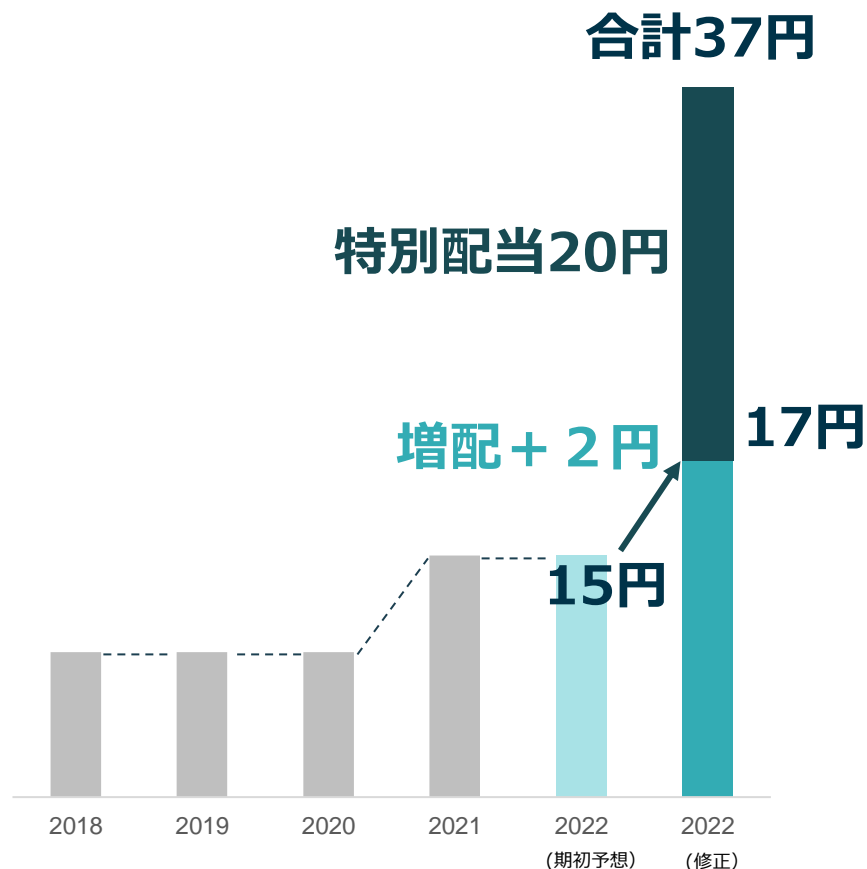
資産効率化 に関する取り組み



- 非事業固定資産の売却等（寝屋川工場跡地の売却益65億円）
- 更なるファシリティ売却・効率化に向けて順調に進捗

株主還元方針を踏まえ、2022年12月期 1株当たり配当金を、普通配当は15円から2円増配の17円にすると共に、特別配当20円を加え、合計37円といたします。

【1株当たり年間配当金(円)の推移】



※2022年12月31日を基準日とする剰余金の配当のうち、特別配当1株当たり20円は、2022年12月期のみ取締役会決定事項であります。

なお、本件につきましては、2023年3月下旬開催予定の第73回定時株主総会に付議する予定であります。

詳細は、2023年2月13日開示のリリースをご参照ください。

【株主還元方針】

当社は、利益配分につきまして、経営の重点政策の一つとして認識し、会社の収益状況、内部留保の充実、今後の事業展開等を総合的かつ長期的に勘案したうえで、株主の皆様へ継続的かつ安定的に配当することとし、期末配当として年1回を行うことを基本方針としております。

2023年12月期業績予想 及び今後の展開

- 設備機器事業の減収減益予想を、ワークプレイス事業で吸収し、連結増収、営業利益増益を見込む
- 当初開示した中計営業利益目標60億円を上回る65億円を見込む

	2022/12 実績	2023/12 予想	対前年		中期経営計画	
			増減差	増減率	目標値	対予想 増減
売上高	1,233	1,300	+ 66	+ 5.4%	1,330	△30
営業利益	45	65	+ 19	+ 41.8%	60	+ 5
[営業利益率]	[3.7%]	[5.0%]	-	+ 1.3p	[4.5%]	+ 0.5P

オフィス、ワークプレイス市況は、堅調予測があるなか、

（※首都圏：港区シフト、案件数増加、延床面積増加）

価値提案に重点を置いた営業活動を展開し、増収、増益を見込む

単位：億円

	22/12 実績	23/12 予想	増減額	増減率
売上高	859	927	+ 67	+ 7.9%
営業利益	25	45	+ 19	+ 75.6%
(営業利益率)	(3.0%)	(4.9%)	-	(+1.9.p)

■ 市場方向性

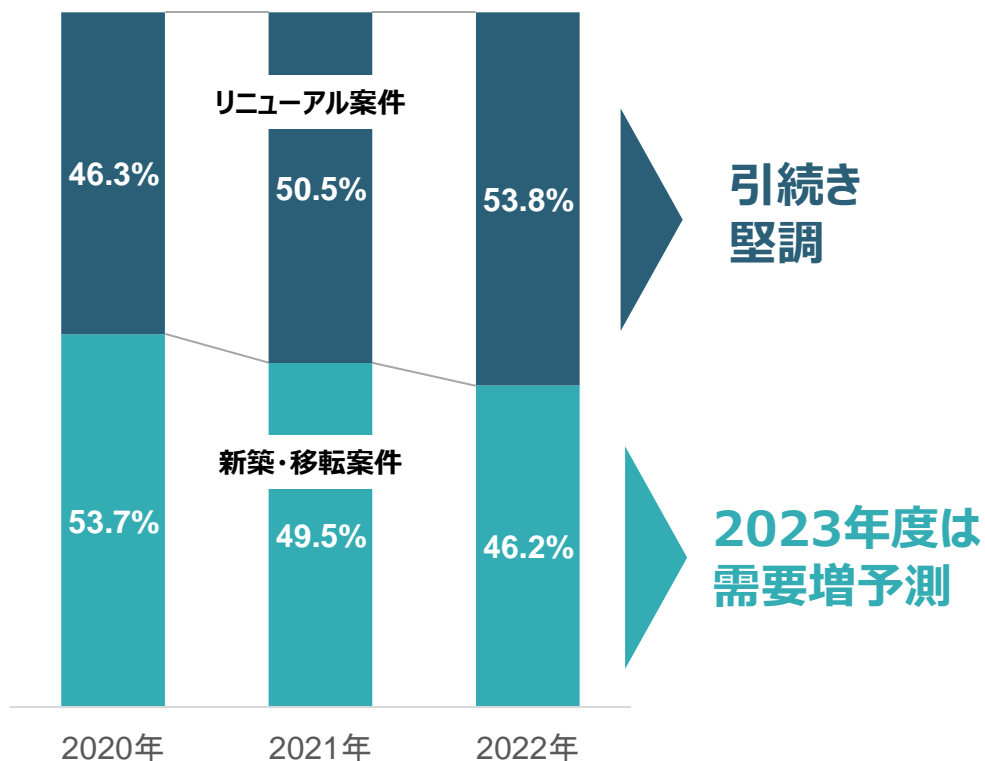
- ・新築は首都圏のほか、大阪、福岡等でも堅調を見込む
- ・特に首都圏では、開発エリアが港区へシフトし、案件数、延床面積増加が予測されている。
- ・オフィスの移転やリニューアル案件は生産性向上をキーに引き続き需要堅調を見込む

■ 当社の方向

- ・堅調な市況のなか、価値提案に重点を置いた営業活動を展開していく

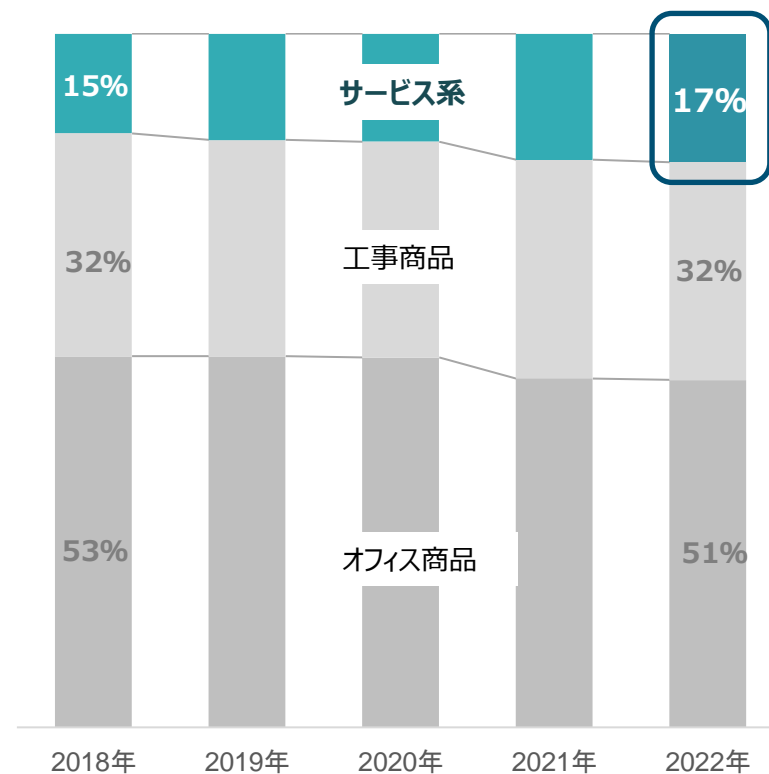
イトーキ単体における商談種別売上構成の推移

※100%積み上げ縦棒グラフ（売上構成比の変化）



イトーキ単体における商材別売上構成の推移

※100%積み上げ縦棒グラフ（売上構成比の変化）



前期の研究開発機器大型受注・売上計上の反動により、今期は減収減益を見込む
 なお、物流設備機器の案件が下期に集中し、四半期損益が下期に偏重する見込み

単位：億円

	22/12 実績	23/12 予想	増減額	増減率
売上高	356	355	△ 1	△ 0.5%
営業利益	14	14	△ 0.8	△ 5.5%
〔営業利益率〕	〔4.2%〕	〔3.9%〕	-	〔△ 0.3p〕

■ 市場方向性（物流市場）

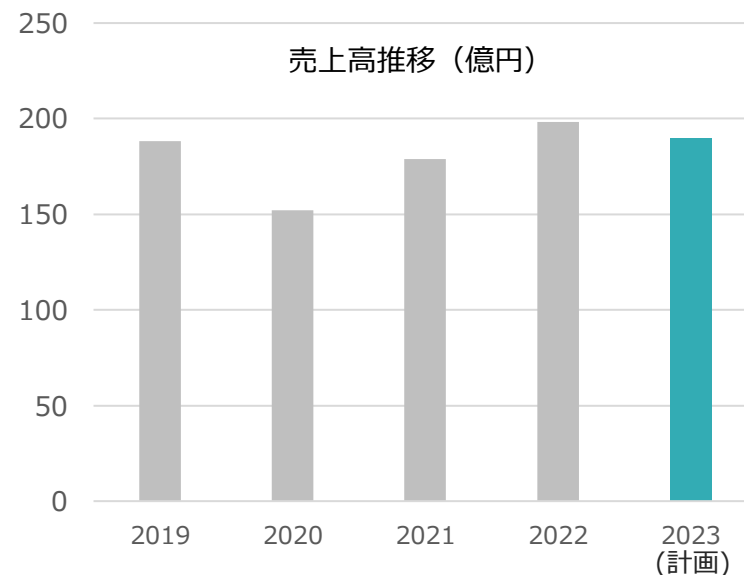
- ・ 省人化ニーズを背景にネット通販、自動車（EV）、冷凍倉庫等への販売堅調を見込む

■ 当社の方向

- ・ 案件の商談数等により下期に案件が集中しており1Q・2Qは弱含むが、年間としてセグメント予想の達成を目指す

主要子会社の状況：DALTON

- ・ 前期は大型受注により業績拡大
- ・ 当期は、商談数・商談規模から過去実績と同等水準を計画（今期はセグメントとして減収要因）
- ・ 製薬や化学系メーカーへの研究開発機器を扱っており、市況は堅調



当社のマテリアリティ

重点テーマ

今後の展開（後述）

社会と人々を幸せにする

- 魅力的なワークスタイル・ワークプレイスを創造する
- テクノロジー×空間で、イノベーションを生み出す
- カーボンニュートラルな社会に貢献する
- 自然環境を守り、資源循環を促進する
- 人権や自然環境の観点で責任ある調達を行う

- ①
- ①、②
- ③、④
- ④

会社と社員が幸せになる

- 社員のココロとカラダの健康を守る
- 社員の成長を支援する
- 多様な人財が働きやすいオフィスを創る
- 持続的に収益を向上させる
- 透明性と信頼の経営を確立する

- ⑤

マテリアリティ

社会と人々を幸せにする

会社と社員が幸せになる

(オフィス家具 + デジタル家具) ÷ 2

スマートオフィス製品の開発・販売



異業種とのコラボレーションも踏まえ、ユニークな製品を開発
AV/ICT機器：2017年と2022年の売上対比 = +43%

元ソニーの長尾氏を招聘



スマートオフィス商品開発本部長に就任

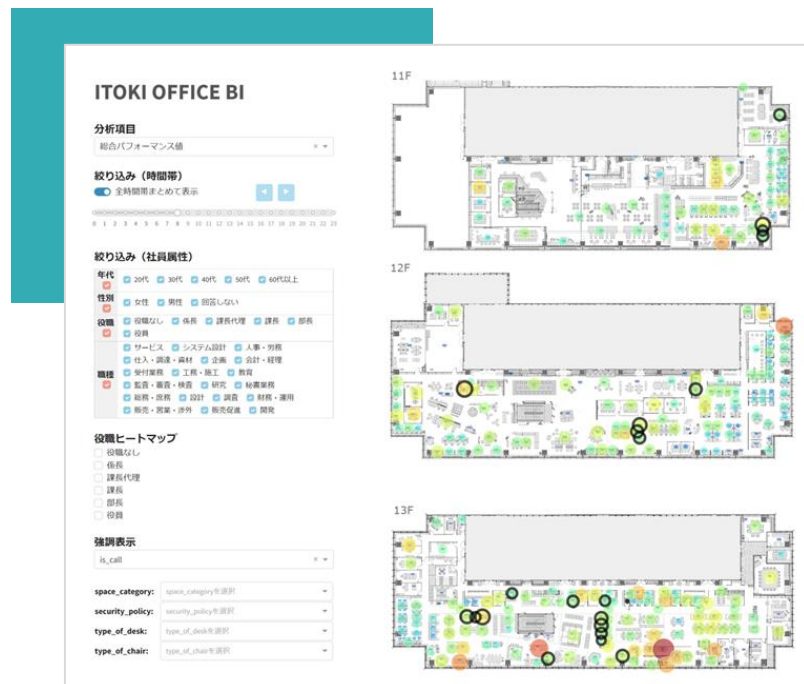
マテリアリティ

社会と人々を幸せにする

会社と社員が幸せになる

オフィス × データ

オフィス × データ



Google オフィスA/BI

メタバース



静岡聖光学院との実証実験プロジェクトを開始
教育現場の環境変化に対応し、知見を蓄積

動画をご覧ください

Google社とのオフィスA/BI

YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=-4vo77ANTRw>

2023年2月10日 適時開示 「イトーキ、スマートオフィス領域で Google Cloud と協力しDXをさらに加速 #2」

マテリアリティ

社会と人々を幸せにする

会社と社員が幸せになる

サステナブルなビジネスモデルの開発

海外へのオフィス家具寄付・リユースビジネスモデル



これまで廃棄をしていた、活用機会のなくなったオフィス家具の所有元と寄付先のマッチング、およびオフィス家具の老朽度判定を実施。
製品寿命の観点、寄付先のニーズをとらえ、循環型社会に貢献

マテリアリティ

社会と人々を幸せにする

会社と社員が幸せになる

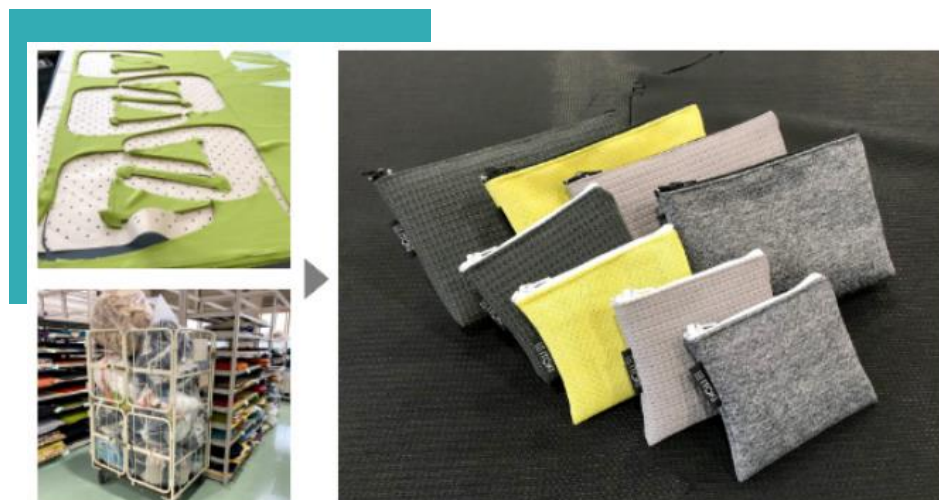
サステナブルな商品・サービスの開発

「コーヒー豆のかす」活用の共同研究

廃材を使ったノベルティの制作



三重大大学 × DALTON × ITOKI



・エコ素材の開発

※技術研究（ダルトン）→素材研究（三重大学）→家具試作（イトーキ）

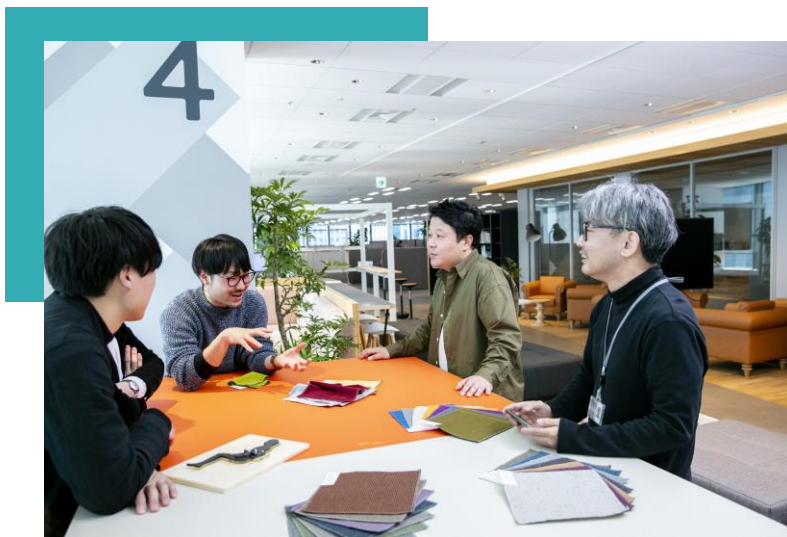
マテリアリティ

社会と人々を幸せにする

会社と社員が幸せになる

人財面に注力し、持続的な成長基盤を創る

人的資本への注力



社員満足度調査

前年比で7%アップ (56% ⇒ 63%)

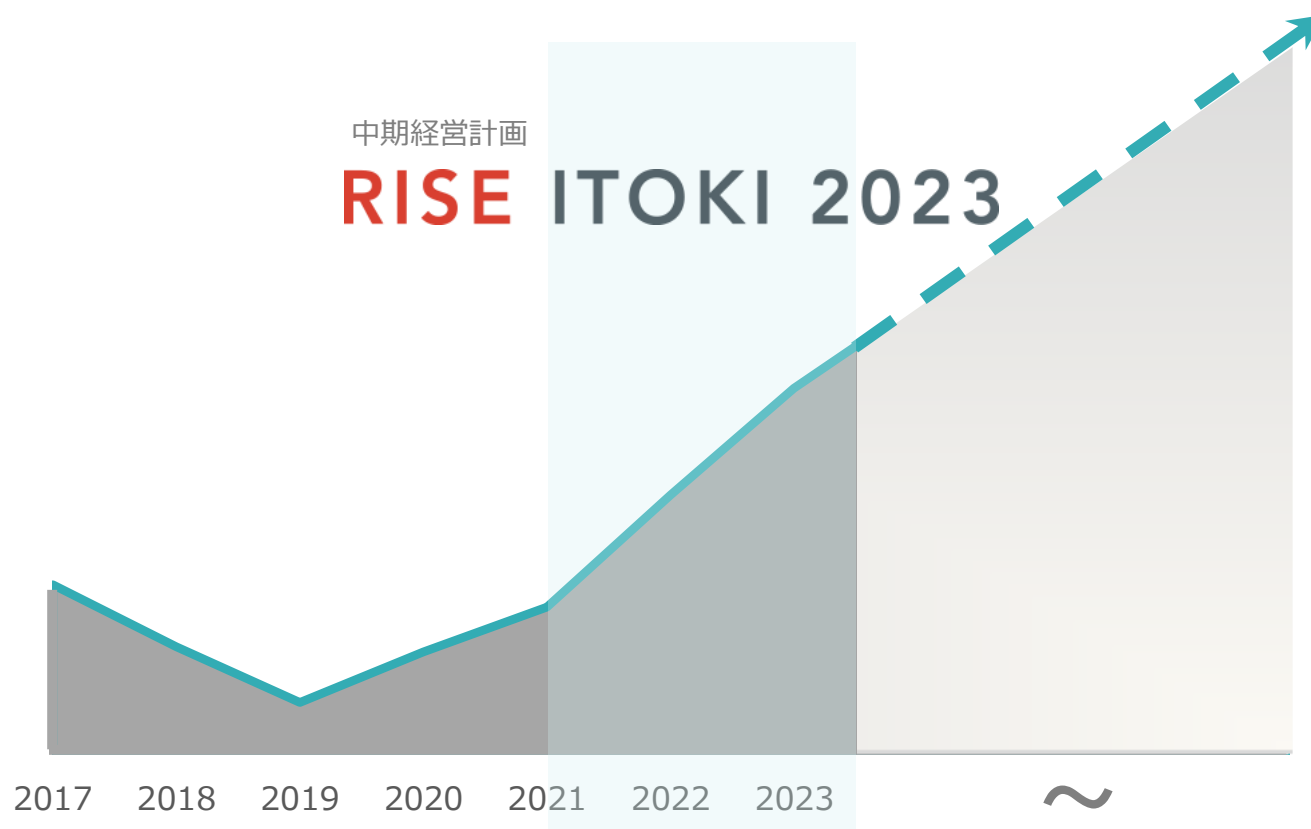
更なる向上を目指す

女性活躍推進



女性のリーダーシップ開発 コミュニティ「SPLi」

- 持続的な利益成長を目指していく
- 今期業績予想の達成を目指すとともに、新中期経営計画を策定する



＜注意事項＞

- 当社の連結決算は日本会計基準を採用しております。
- 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後のさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞

株式会社イトーキ
広報IR部

電話:03-6910-3910
E-mail:itk-ir@itoki.jp
<https://www.itoki.jp/ir/>

明日の「働く」を、**デザインする。**